

AINU×KOBUSHI



KOBUSHI

2027.2.21 sun

14:00 (Open 13:30)

浜離宮朝日ホール 東京都中央区築地5-3-2 朝日新聞東京本社・新館2階

Tickets ○プレミアムシート： 7,000円(税込) [全席指定]
（前方・ポストカード・終演後撮影会付）
○A席：5,500円(税込) [全席指定]

出演者 豊川容子(歌)
nincup
三浦一馬(バンドネオン)
浅野 祥(三味線・唄)
曽根麻央(ピアノ・トランペット)
Kan(パーカッション)

曲目 赤とんぼ
故郷
浜辺の歌
朧月夜

※都合により、曲目、曲順が変更になる場合がございます。ご了承ください。

主催 株式会社Moon
お問合せ Mitt 03-6265-3201(平日12:00～17:00)

【プレイガイド最速先行(先着)】 受付期間：2026年10月27日(火)12:00～10月29日(木)23:59
チケットぴあ w.pia.jp/t/kobushi/

【プレイガイド先行(先着)】 受付期間：2026年10月30日(金)12:00～11月2日(月)23:59
チケットぴあ w.pia.jp/t/kobushi/
ローソンチケット l-tike.com/kobushi/
イープラス eplus.jp/kobushi/

【一般発売(先着)】 販売期間：2026年11月7日(土)10:00～
○チケットぴあ[Pコード：340-518] ○ローソンチケット[Lコード：34674] ○イープラス
○朝日ホール・チケットセンター
TEL: 03-3267-9990(オペレーター対応 日・祝除く10:00～18:00)※一般発売より取り扱い
○MITT TICKET
TEL: 03-6265-3201(平日12:00～17:00)※座席選択可能

nincup × 豊川容子 × 鼓武士

AINU×KOBUSHI

日本各地に受け継がれてきた音、祈り、文化を、現代の感性と共に未来へそして世界へつないでいく「MOONRISE」シリーズ。
今回はアイヌの歌と文化を伝える豊川容子・nincupと、日本の音楽を新たな表現で届ける鼓武士が出会います。
異なる土地で生まれてきた音楽や祈りが響き合い、それぞれのルーツを大切にしながら、新しい音の景色を生み出す特別なステージ。
受け継がれてきたものを守るだけでなく、今を生きる音として未来へ、世界へ。
日本のルーツが、今新たに動き出す。



豊川容子（歌）

アコースティックユニットziziのボーカルとして関西を中心に活動し2007年アルバム「door」をリリース。北海道帯広に戻った後、自身のルーツであるアイヌのウポポ（歌）を取り入れ歌い始める。
「60のゆりかご」という短編アニメで夫のルーツである平取地方のイヨンノッカ（子守歌）を担当。YouTubeで視聴できる。
2016年度STVラジオのアイヌ語ラジオ講座講師。2020年ロンドンJAPAN HOUSEにて、2024年ヴェネツィア・サンタマルゲリータ講堂にて公演。札幌在住。



nincup

新月の前の細くなった月のことを、アイヌ語で「nincup（ニンチュプ）」という。
新しい世界へ旅立つ前の晩の宴。
アイヌの伝統歌、舞踊、世界五大叙事詩ユカㇻ、アイヌ語のオリジナル曲等、ギターの音色とともに、森と街、新しい世界への憧れ、心の葛藤を、物語のようにライブを展開してゆく。

西村嘉洋（ギター）

nincupのギターやトラックを制作。
ギターベース、ウクレレ奏者、
ジャズやラテン、アフリカ音楽など様々なジャンルのミュージシャンと共演。
SAWASAWAギター・ベース・ウクレレ教室を十勝で運営。

カンチャン（歌・踊り）

平取町二風谷出身。地元の古老より口承文芸、民間伝承、神事（祈り）、古式舞踊を継承する。
担当は歌・踊り・打楽器・鳴り物など。
現在はウポポイ（白老町）でアイヌ語・文化を来園者に伝えるほか、海外からの来訪者に対して行う歓迎の儀や、園内案内を務める。
2025年 台湾原住民文化園区（台南・高雄）にてウポポイ初のアイヌ芸能海外公演に携わる。



Kan（パーカッション）

高校卒業後に渡米し、ニューヨークで小川慶太氏らに師事。
2016年にバークリー音楽大学へ入学。
在学中より、Blue Note Tokyoやボストン州議事堂での演奏、ヨーロッパツアーへの参加など、国際的な活動を展開する。参加したAlain Malletのアルバム『A Wake Of Sorrows Engulfed In Rage』は、第63回グラミー賞「Best Immersive Audio Album」部門にノミネート。また、Yotam Ishay率いるバンドのメンバーとして参加した楽曲が、Snarky Puppyのマイケルリーグとピルローレンスが審査員を務めたコンペティション「Beyond Music」で選出され、両氏がプロデュースするアルバムに収録された。
2022年には小曽根真率いるビッグバンド「No Name Horses」にゲスト出演。さらに、世界的シンガーErykah Baduや、ブラジルを代表する作曲家・ピアニストAndré Mehmariらとの共演を重ね、ジャンルや国境を越えた活動で高い評価を得ている。
現在は東京を拠点に演奏活動を行うほか、日本の音楽・文化・芸術を新たな表現へと昇華し世界へ発信するプロジェクト「MOONRISE」のアーティストディレクターとして舞台制作にも携わっている。



三浦一馬（バンドネオン）

2006年、別府アルゲリッチ音楽祭でバンドネオンの世界的権威ネストル・マルコーニと出会い、自作CDの売上で渡航費を捻出してアルゼンチンへ渡り、現在に至るまで師事。
2008年、イタリアで開催された第33回国際ピアソラ・コンクールで日本人初、史上最年少で準優勝を果たす。
2011年には別府アルゲリッチ音楽祭でマルタ・アルゲリッチ、ユーリー・バシュメットら世界的名手と共演。
2014年度出光音楽賞受賞。
NHK大河ドラマ「青天を衝け」の大河紀行音楽演奏を担当し、テレビ朝日「徹子の部屋」への出演など、幅広いメディアでも注目を集める。最新アルバム『三浦一馬 バンドネオン・シネマ』（ビクター）をリリース。2026年には「鼓武士」のメンバーとして、日本の伝統音楽との融合を通じ、バンドネオンの新たな可能性を世界へ発信している。使用楽器は、恩師ネストル・マルコーニより譲り受けた銘器Alfred Arnold。



浅野 祥（三味線・唄）

宮城県仙台市出身。慶應義塾大学卒業。
3歳で和太鼓、5歳で津軽三味線を始め、三絃小田島流二代目・小田島徳旺氏に師事。
14歳で津軽三味線全国大会（現・津軽三味線世界大会）最高峰A級を史上最年少優勝し、2004～2006年の3連覇で殿堂入り。
17歳でメジャーデビュー後、アメリカ、ヨーロッパ、アジアなど世界各地で公演を重ねる。ジャンルを超えた演奏活動で山下洋輔、宮沢和史、yama、沖仁らと共演し、ウィル・リー、マーカス・ギルモア、リチャード・ストルツマンら世界的音楽家との作品も発表。ロックフェスやジャズフェスにも出演し、和楽器の新たな可能性を切り拓く。2023年には三絃工房と世界初となる三味線奏者のエンドースメント契約を締結。2025年には曽根麻央とのユニット「MAOSHO」を結成し、ニューヨーク公演を成功させるなど、世界を舞台に活躍を続けている。



曽根麻央（ピアノ・トランペット／作曲・編曲）

幼少期よりピアノを学び、8歳でトランペットを始める。
バークリー音楽大学大学院修士課程第1期生を首席（summa cum laude）で卒業。
国際トランペット連盟（ITG）ジャズ・コンペティション優勝をはじめ数々の受賞歴を持ち、世界各国のジャズフェスティバルに出演。帰国後はアルバムリリースやBlue Note Tokyo出演、映画音楽、Netflix作品への楽曲提供・ピアノ監修など、演奏家・作編曲家として多彩な才能を発揮している。
2026年7月には、声明・弦楽器・ジャズを融合した革新的な音楽ステージ「響」の音楽監督を務める。
同年、津軽三味線奏者・浅野祥とのユニットMAOSHOでアメリカデビューを果たし、日本の伝統音楽とジャズを融合した新たな音楽を世界へ発信。
さらに「鼓武士」では、日本文化の魅力を現代的なサウンドで表現し、国内外で高い評価を得ている。

鼓武士 KOBUSHI